

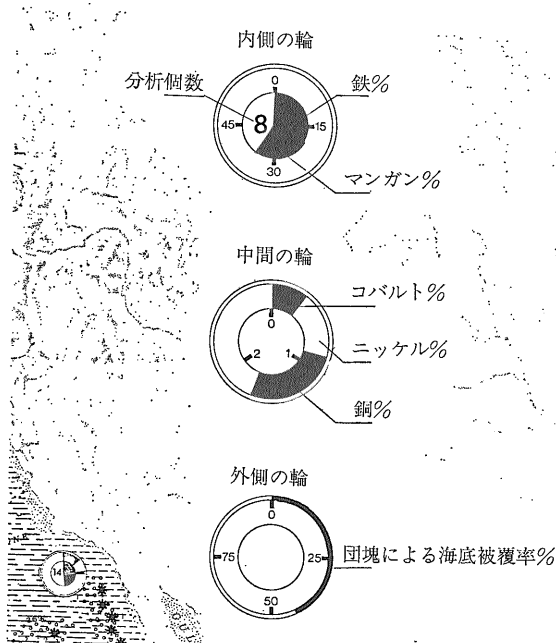
造と関連させてある程度解釈によりその分布が面的に示されたことに特徴がある。さらに5,481個所のカメラ測点のデータが被覆率(0 25 50 75 100%)を付して表示されまた1,180個の既存の化学分析値のある場所と主要地点における金属成分の組成とが表示されている。その組成表示の方法はなかなかうまく考えてあり多様な情報をもり込むという編集者の意図の一端を示すものとして紹介しておく(第2図)。

なお本図の注文先を参考までにあげておくともし個人で購入申込みをする場合は Ms. Marie Tharp にあらかじめ問い合わせた方が良く(とくに送料などについて)。

地図名: Ocean Floor Sediment and Polymetallic Nodules, by Martine Dreyfus Rawson and William B. F. RYAN, 1978

価格: 1部単価 \$20.00  
20部以上一括購入単価 \$10.00

あて先(小切手振込先):  
Bruce C. HEEZEN Fellowship Fund



第2図 マンガン団塊の金属成分組成の表示法

Lamont-Doherty Geological Observatory  
Palisades, New York 10964 U. S. A.  
Attention: Ms. Marie Tharp

(以下43頁からつづく)

おわりに

今回の調査研究航海では 出航24時間以上前より船上重力計を動作させ また前回の航海後主電源を断った後も一般電源による補助ヒーターでもって重力加速度検出部を定温状態に保たせていた。そのために以前と異なっていたウォーミングアップ時間の短かさからきたとみられるドリフトが取り除かれて 線型性のよいドリフトとなったと考えられる。

船上重力計のようなスプリングを用いた重力計にドリフトは宿命であり いかにこれを手はずけるかが問題である。海上重力調査のような長期にわたる重力調査では 十分なプレヒーティング・ウォーミングアップや寄港地での重力接続はドリフトによる誤差を減少させるであろう。

寄港地の重力調査にあたり 西村清人技官(海洋地質部)に資料等の手配をしていただいたことを感謝します。

人事異動

地質調査所では11月1日付で次のとおり 人事異動が行われました。

|       |                  |              |
|-------|------------------|--------------|
| (氏名)  | (新)              | (旧)          |
| 坊城俊厚  | 地質調査所燃料部主任研究官配置換 | 地質調査所燃料部長    |
| 曾我部正敏 | 地質調査所燃料部長昇任      | 地質調査所燃料部石炭課長 |
|       | 燃料部石炭課長併任        |              |

昭和53年11月1日  
工業技術院